

# 建物及び設備における石綿使用状況

沖縄電力株式会社  
平成21年3月末現在

対象	使用箇所	現状（使用状況等）	備考（対応状況 他）	
石綿を含有する吹付け	耐火吹付け材として自社建物の一部に使用	・ 自社建物：1棟 本館棟1、2F梁（囲い込み対策済み）、機械室	機械室については施錠を行い、入室管理を徹底している。 当該建物の石綿を処置する際には飛散防止対策を講じる。	
石綿含有製品	建材	天井材、吸音材、外壁材に使用	平成18年8月以前に使用された建材に含まれていると考えられる。それ以降は石綿含有製品は使用していない。	
	防音材	変圧器の防音材	・ 8台 変圧器の防音壁に使用（石綿セメント板）	
	石綿セメント管	地中線用の管路材料（送電設備） ※配電設備については使用箇所なし	・ 巨長：約2.6km 地中送電線用の管路材料	成形品であり、通常状態において飛散性はないため、定期検査や修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。
	保温材	発電設備（火力設備）	・ 約1,000m <sup>3</sup> ※発電設備の保温材取替工事等により、7m <sup>3</sup> 減少した。	
	シール材・ジョイントシート	発電設備（火力設備）	・ 石綿含有製品： （火力）約79,000個	
	緩衝材	送電設備等の懸垂碍子	・ 懸垂碍子 約100,600個 （石綿含有製品は磁器と金具間の緩衝材として碍子内部に封入。碍子の磁器部分には使用されていない。） ※アスベスト含有不明碍子の継続調査結果より、約21,900個増加した。	成形品であり、加えて碍子内部に封入されているため、通常状態において飛散性はないが、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。
	増粘剤	架空送電線用の電線	・ 防食電線：巨長約0.6km	油性材料（防食グリス）と一体化しているため、通常状態において飛散性はないが、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。
その他	上記以外にも石綿含有製品を一部使用しているが、いずれも成型品であり、通常状態において飛散性はないため、定期検査や修繕工事等の機会にあわせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。			

※前回調査（平成20年3月末）からの増減理由を示した。